

TYPE OF
INDUSTRY

不撓不屈

ふどうふくつ

76番目のセンダン

温暖な地域に自生する落葉広葉樹センダンの葉

根路銘は最も効果の高い

かつたセンダンの研究を

続けた。しかし、がん細

た植物を片端から採取してい

ル、それが落葉広葉樹の

く、本人いわくセンダンだつた。

経口でセンダン抽出液を

「ショットガン方式」を選んだ。

胞を移植したマウスに、

採取と試験を

投与したところ肝臓から

繰り返して2年

大量に出血した。失敗だ

ほどが経過し、

った。しかし、がん細

目を引く結果が出た。

胞を移植したマウスに、

会による支援では結果を

出せなかつた。そのため

た。それでも出せなかつた。

肝臓の出血はなくなつた。

た。それまでも出せなかつた。

まだマウスでの結果では

あるが、がん細胞に立ち

向かえる可能性が見えた

に狙い撃ちで調べていく

瞬間だつた。ただ目指す

いくつか効果がある植物

のは医薬品開発であり、

独立し、04年に自ら出資

苦難はむしろ始まつたば

に特段あつたわけではな

かりだ。(敬称略)

弁当を片手に山に入る。手当たり次第に植物をサンプルとして採取して研究所に持ち帰る。写真を撮つて記録し、すりつぶして成分を抽出しては効果を試験する。また山に入つては新たな植物を探取する。沖縄で副作用のない抗がん剤開発を目指す根路銘国昭には、そんな日々が待つてい

生物資源研究所

(3)

現在は生物資源研究所（沖縄県名護市）の社長であり所長として研究を指揮する根路銘。恩師のがんによる死と薬の副作用の苦しみを目にし、60歳を越えてから、専門だったウイルス分野ではなく、がん研究を志した。けられ、所長として研究抗がん剤開発を決断しをスタートする。

農林高校の後援会だった。名護市内に後援会付属という異例の施設が設立された。そこへ、所長として研究をスタートする。

まずは素材探しを始め

ことから、母校に異例の施設

（沖縄県名護市）の社長

2001年、帰郷した

根路銘を受け入れたのは、母校である県立北部

農林高校の後援会だつた。

名護市内に後援会付

属という異例の施設が設立された。

そこへ、所長として研究を

抗がん剤開発を決断しをスタートする。

た後、拠点は沖縄に置くことを固く決めていた。

副作用をなくすには天然

原料を使う必要があると

考えており、故郷・沖縄

の亜熱帯の豊富な自然が

資源になると思ったから

だ。根路銘に植物の知識

に狙い撃ちで調べていく

方法もあつたが、山に入

は見つけていた。しか

して生物資源研究所を設立。再スタートを切る。

かりだ。(敬称略)

手当たり次第に植物試す

中小企業・地域経済

